

地域と共に成長する大学を目指して

地域に貢献する数々のプロジェクトに参加

産官学連携への取り組み①

水戸の食材を使って地域のにぎわいを創出

国際学部経営学科 地場農産物利用促進事業

国際学部経営学科のマーケティング実習と水戸市の共同プロジェクト「地場農産物利用促進事業」が実施され、11月21日に学生たちのアイデアを発表する最終報告会が行われた。この事業は「どうすれば水戸の多彩で豊かな食材を使って、街のにぎわいを生むことができるだろうか?」というテーマで実施。学生たちに与えられた課題は、水戸市で生産された地場農産物を使用している飲食店の集客率を高める具体策だ。学生たちは、2カ月という短期間で最終報告の当日を迎えたが、若者の視点から集客に対するさまざまなアプローチが提案された。発表は、5チームに分かれて実施。地場農産物を使用していることをアピールするステッカーの作成、SNSを使った広報、店先に地産地消をアピールするブラックボードの設置など斬新な企画を提案。



▲会場に水戸市の関係者らが多数訪れた。

「水戸の梅まつり」との関連企画では、イベントを通して偕楽園から飲食店が建ち並ぶ商店街に人が回遊する流れを作る企画も発表された。当日は、高橋靖水戸市長も訪れ「皆様のご提言は精査して行政に反映していきます。これを機会に水戸のさまざまな魅力に触れ、新しい水戸の文化を創造していきましょう」と総評した。



地産地消推進店

▲採択されたチームのキャッチコピー「水戸美味」がポスターやステッカーに。

産官学連携への取り組み②

水戸市が取り組むべき課題を学生の視点から提案

コミュニティ振興学部 大学生によるまちづくりプレゼン

水戸市と連携協力協定を締結している常磐大学は、新しい水戸市のビジョンとなる「第6次総合計画」の策定に当たり、若者の視点でより良いまちづくりを提案するための「大学生によるまちづくりプレゼン」を11月29日に開催した。水戸市が総合計画策定の過程で、学生の意見を取り込むのは今回が初めて。提案は報告書にまとめられ、高橋靖水戸市長に提出された。発表の場には高橋市長をはじめ市幹部職員の方々、また、常磐大学からは森征一学長、教職員、学生などが参加し、約150名の聴衆が会場に詰めかけた。提言を行ったのは、地域社会についてさまざまな研究・教育を行っているコミュニティ振興学部の学生たち。特に日頃からまちづくりを担う人材を育成している、井上繁、岡嶋宏明、中村英三、林寛一、横須賀徹、各教員のゼミナールに所属する学生らが水戸市の現状を調査・分析し、多角的な視点からまちづくりの具体的な政策を発表した。発表では、地域に愛着を持つ人材の育成、廃棄物処理問題、老老介護の支援、植物公園の資源の利活用、防災に関する安心安全まちづくりなど、水戸市が直面する問題に切り込んだ。発表後には、プレゼンテーションした研究テーマに沿った質疑応答が市職員の方々と活発に行われ、行政の実務に沿った意見交換を展開。普段は得ることのできない貴重なアドバイスを頂いた。



▲学生の発表に真剣に耳を傾ける参加者。

●産官学連携への取り組み③

●地域資源の利活用を「広報みと」で提言

●コミュニティ振興学部地域政策学科・林寛一ゼミナール「僕たちはこう考える」

コミュニティ振興学部地域政策学科・林寛一ゼミナールは、若者の視点からの政策提案を水戸市から依頼され、「僕たちはこう考える」というタイトルで2008年から水戸市の広報誌「広報みと」に政策提言を掲載している。そして12月15日に発行された広報みとで、官学連携企画13として「植物公園をもっと楽しんでみたい！」を発表した。この企画は「未来の水戸をつくる市民1万人アンケート」で水戸の魅力ある資産の一つとして挙げられた植物公園をさらに楽しめる公園とするための具体策を提案するもの。車を使った移動式の植物公園や観賞と同時に実際に飲むことのできるコーヒーの栽培、また、イルミネーションでの演出など、植物公園の新しい魅力を創出するアイデアが披露された。林ゼミナールでは、今後もさまざまな形で地域活性化の提言を行っていく計画だ。



●産官学連携への取り組み④

●海だけではない大洗の魅力を学生たちが発掘

●「大洗まちあるきマップ」提案発表会



▲「裏道コース」マップとプレゼンテーションの様子。

学生による地域の魅力発見プロジェクト「大洗まちあるきマップ」の提案発表会が、12月12日に実施された。このプロジェクトは人間科学部石田喜美ゼミナールを中心とした学生と、鹿島臨海鉄道、大洗町周辺の住民の方々が連携してまちあるきマップを作成し、大洗の魅力を発信していこうというもの。A3四つ折りサイズを仕様とし、「大洗海遊号でいく ワクワク王道コース」「たべさんぽ」「裏道コース」「Cafe & レストランマップ」「パワースポット巡り」などのコンテンツを各ページにレイアウト。楽しいイラストレーションも添えられ、盛りだくさんな内容となっている。東日本大震災の福島原発事故以来、大洗町は風評被害で少なからず打撃を受けている。そこで、海だけではない大洗の姿をアピールし地域の

活性化を図っていこうというのが大きなコンセプトだ。当日は、マップの見やすさやイラストのタッチなど細部にわたる意見交換がなされ、春の完成に向けた熱の込められた提案の場となった。

●産官学連携への取り組み⑤

●京成百貨店のイベントを通しビジネススキルを高める

●国際学部経営学科の学生が京成百貨店でイベントを開催

国際学部経営学科で商業・マーケティング分野を学ぶ学生たちが1月12日・13日に水戸京成百貨店でイベントを開催した。このイベントは「ビジネス専門実習」の授業の一環として行われたもので、企画内容から運営、プロモーションなど全て学生が主体的に行うことが特徴。学生たちにとって、集客や売り上げを含め企業利益も視野に入れた、実践的なビジネススキルを学ぶ貴重な機会となる。開催されたイベントは、親子で台紙にビーズを貼り付け絵を完成させる「ビーズでつなぐ思い出のピース～親子で思い出のアルバムづくり～」、風呂敷の使い方を講習する「FURO☆SHIKI講座」、新しいレッグファッションを提案する「あしもとさんのファッション革命」の3企画。幅広い年齢層に合わせた接客など学生には困難な課題も多いだけに、成長するきっかけとして最適なイベントだ。常磐大学のOBでもある京成百貨店・営業企画担当の糸井隆彦さんは、「学生から社会人になるモチベーションの切り替えの機会になればと思います。今回で3回目を迎える企画ですが、今後も学生の皆さんのスキルアップのため、また地域貢献の一環として継続していきたいです」と話していた。



▲親子で楽しめるビーズ細工。



▲風呂敷の多様な使い方をレクチャー。



▲足下で変わるファッションを提案。

研究計画能力の養成と倫理観を学ぶ

● 常磐大学大学院第2回アカデミックスキル養成講座

大学院生の研究能力向上を目的とした、2012年度常磐大学大学院第2回アカデミックスキル養成講座が、12月8日に行われた。この講座は、大学院生が学位論文を書き上げるために必要な知識やスキル（「研究の技法」「研究計画能力」「倫理観」等）を身に付けてもらうために開催された講座である。大学院教育に携わる教員が講話者となり、自身の経験を踏まえながら、研究計画能力の養成と倫理観を学ぶための提言を行った。最初に登壇したのは人間科学研究科長の森山哲美教授。「研究計画の書き方について～どうすれば論文書きが楽しくなるのだろう～」というテーマで、哲学や精神論だけではなく、論文を書く上で必要とされる理論、スキルをレクチャー。次に人間科学研究科博士課程（後期）・修士課程を担当する秦順一教授が「研究倫理」をテーマに、研究や論文を作成する上での倫理的配慮や個人情報保護法等に関する注意点を語った。最後に、コミュニティ振興学研究科長の水嶋英治教授が「研究への取り組みについて～研究は素朴な疑問から始まる一書けない読めない人のために一～」と題して、論文を書くためのステップを丁寧に解説。論文を書く楽しさを伝えた。当日は、東京の芝浦サテライトキャンパスと双方向の遠隔授業システムで繋ぎ、活発な意見交換が行われた。



▲それぞれの講座の後には熱心な質疑応答が行われた。

幼児教育に関する日頃の学びの成果を発表

● 短期大学幼児教育保育学科「幼教フェスタ」



▲美しい音色で観客を魅了したハンドベル。

常磐短期大学幼児教育保育学科の学生たちによる「幼教フェスタ」が、12月9日に行われた。幼教フェスタは、学生たちがこれまで学んできた幼児教育に関する知識や技術、練習の成果を発表する場。歌やダンスなど、さまざまなパフォーマンスを一般に披露する大きな舞台だ。ステージで行われたのはミュージカル仕立ての演劇や、ハンドベル、合唱など。クリスマスにちなんださまざまな演出や、美しい照明で彩られたステージは、会場に集まった学生や一般の方々に幻想的な世界に誘っていた。



▲熱いダンスパフォーマンスも見所の一つ。

課題研究発表展示では「とびだす絵本」「御伽草子の世界～昔の子どもたちはどんな絵本を読んでいたのか～」ダンボール箱の中にイメージする空間を構成する「ボックスアート」など創造性豊かな楽しい企画や、実習での経験をもとにした保育に関する事例検討なども展示。保育者として必要な知識・技術を学んできた学生たちの、日頃の学習成果を実感する一日となった。

読書の楽しみをたくさんの人たちと共有

● 常磐大学文藝部による「ビブリオバトル」

茨城県立図書館で11月4日に開催された「いばらき読書フェスティバル2012」において、常磐大学文藝部主催の「ビブリオバトル」が行われた。今回はさまざまな人にビブリオバトルを知ってもらうため、デモンストレーションを実施。その後、県立図書館キャラクターの「ブック・マーくん」と常磐大学マスコットの「ときわんこ」によるビ



▲ブック・マーくんもビブリオバトルに参戦。



▲9回目の出場となる岩本東子さん。

ブリオバトル広報活動も行われ、会場に集まった人々の注目を集めた。今回のビブリオバトルは10代から50代まで、幅広い年齢層の方々が参加。会場に集まった参加者からは、今まで知らなかった新しい本と出会うことができた、と多くの声が寄せられた。バトルに参加した人間科学部現代社会学科3年の文藝部員、岩本東子さんは「たくさんのお客様が集まってくださり、本当に驚きました。今後も茨城県立図書館でビブリオバトルを開催する予定なので、今回参加できなかった方も、ぜひ、会場に足を運んでいただきたい」と、さらなる参加を呼びかけていた。

ブラジルのポテンシャルと日本との信頼関係の将来を知る

● 第1回国際交流語学学習センター講演会

第1回国際交流語学学習センター講演会が、10月24日に開催された。講師としてお招きしたのは、前・在ブラジル特命全権大使の島内憲氏。島内氏は外務省に入省後、在マイアミ総領事や中南米局長、在スペイン大使などを歴任した経歴を持つ。

演題は「躍進するブラジルと日本・ブラジル関係～リオ・オリンピックを4年後に控えて～」。世界最大の日系社会を持つといわれているブラジルのポテンシャルと、日本との信頼関係の将来について講演していただいた。



▲島内憲氏。

島内氏はまず、数字で見るブラジルと題して、世界の日系人の60%を占めるブラジルの人口構成や、広い国土に内在する豊かな自然環境などを解説。持続的な成長を可能とする、さまざまな好条件に言及した。

さらに、今後の世界経済に不可欠な資源を豊富に保有するブラジルの可能性を示し、日本とブラジルがさらに親交を深めるメリットを会場に集まった聴衆に伝えた。リオ・オリンピックやサッカーのワールドカップ開催が近づくにつれ、さまざまな報道がなされるブラジルだが、政治や経済等に対する偏見を覆す、素晴らしい講演会となった。



▲会場には多くの聴衆が詰めかけ関心の高さがうかがわれた。

横浜市の取り組みに見る日本の「環境未来都市」構想

● 教育実践研究所 2012年度第3回講演会



▲自らの経験を通し環境未来都市の重要性が語られた。

教育実践研究所主催、エコセンター協力の教育実践研究所2012年度第3回講演会が11月21日に開催された。講師としてお招きしたのは、横浜市温暖化対策統括本部環境未来都市推進担当理事の信時正人氏。「環境未来都市 横浜の挑戦—誰もがぐらしたいまち・活力あるまちを目指して—」をテーマに、環境未来都市構想、横浜スマートシティプロジェクト、環境分野における大学の役割について講演していただいた。

信時氏は、まず、これまで自ら携わってきた横浜市の環境問題に対する取り組みを紹介。温室効果ガス排出量の増加や急速な人口高齢化など、横浜市が直面してきた課題と、環境未来都市の実現に向けたさまざまな試みを具体例を挙げ

ながら解説した。また、環境教育・環境啓発に対する大学の役割を実例を通して紹介。会場を訪れた聴衆に、環境未来都市の構築に向けて、さまざまなアプローチがあることを訴えた。

環境問題をはじめ、今後、地方都市が抱える問題は少なくない。そんな中、実際に未来志向のまちづくりを成功させてきた信時氏の講演は、教育機関がどのように環境問題に関わっているのか、確かな指針を示していた。



▲信時正人氏。

数種の語学教授法の成果を標準偏差値を用いて比較

● 人間科学部の中西講師が全国語学教育学会の「Best of JALT」を受賞

常磐大学人間科学部の中西貴行講師が全国語学教育学会（JALT）の「Best of JALT」を受賞した。2011年度茨城支部の研究発表の中から最も優れた発表として選考されたもので、テーマは「Research Method Statistical Issues Part 1: What if you have two groups to compare?」。数種の異なる語学教授法の成果を、平均値のみではなく標準偏差などを用いて比較する方法を論じた発表である。中西講師は「この研究内容は複雑になりやすいため、説明が分かりやすくなるように図を用いて工夫しました。それでも多くの質問を頂いたのでさらに検討するきっかけになりました。今後さらに違った統計処理法を発表で用いたいと思っています」と受賞の感想を述べた。



▲賞状を手にする中西講師。

●2012年度卒業予定者の就職状況

2012年の求人内容は、高齢化の波を受け福祉系の業種が3分の1と高い割合を占めた。また、産業構造の変化に伴い卸小売業やサービス業の求人も増え、そういった業種を希望する学生は、早期に内定を獲得している。このような状況の中、必ずしも学生の希望に沿った求人内容ばかりではないケースも見受けられる。キャリア支援センターでは学生と共に「働くこととは何か」を一緒に考え、一人ひとりに合った職業選択のサポートを行っている。低学年にはキャリア支援プログラム、高学年には多彩な就職支援プログラムを用意し、多くの学生が参加することで、各自に適した就職活動を継続している。

主な就職内定先（2012年度卒業生）

【常磐大学】

製造業	新日鉄住金株式会社鹿島製鉄所
電気・ガス業	日本瓦斯株式会社
情報通信業	株式会社日立アイシー
	株式会社茨城計算センター
運輸、郵便業	東日本旅客鉄道株式会社
卸売・小売業	関彰商事株式会社
	ブリヂストンタイヤジャパン株式会社
	富士ゼロックス茨城株式会社
	茨城トヨタ自動車株式会社
金融・保険業	株式会社常陽銀行
	茨城県信用組合
	商工組合中央金庫
	SMBC 日興証券株式会社
サービス業	日清医療食品株式会社
	ひたちなか商工会議所
複合サービス事業	JAグループ
医療、福祉	医療法人筑波記念会筑波記念病院
	全国健康保険協会 社会福祉法人水戸市社会福祉協議会
教員	茨城県公立小学校、埼玉県公立小学校、リリーベール小学校、他
公務員	警視庁、茨城県警察、航空自衛隊、日立市消防本部、栃木県職員、水戸市役所、ひたちなか市役所、他

【常磐短期大学】

製造業	東京フード株式会社
	株式会社河合楽器製作所
運輸、郵便業	東日本旅客鉄道株式会社
	ヤマト運輸株式会社
卸売・小売業	株式会社セブン-イレブン・ジャパン
	イオンリテール株式会社
	株式会社水戸京成百貨店
	茨城日産自動車株式会社
	茨城ダイハツ販売株式会社
金融・保険業	株式会社サマンサタバサジャパンリミテッド
	アイ・ティ・シーネットワーク株式会社
	株式会社常陽銀行
サービス業	株式会社日立保険サービス
	株式会社スタジオアリス
	日産観光株式会社
	株式会社水戸京成ホテル
複合サービス事業	JAグループ
教員・公務員	日立市公立幼稚園・保育所
	鉾田市公立幼稚園・保育所
	大子町公立幼稚園・保育所
	東海村公立幼稚園・保育所

●選考試験の現実に即した「就職実践講座」を開催

キャリア支援センター主催の「就職実践講座」が、12月22日に開催された。この講座は毎年行っている講座で、今回は約90名の学生が参加。実際の選考試験が始まる前に、自分のレベルを知ることができる貴重な機会となった。

講座は「個人面接」「グループ面接」「グループディスカッション」の3つの内容を設け、グループ分けされた学生たちがローテーションで全ての講義を受ける。個人面接の講座では、1分間の自己PRや志望動機などを学生が面接官役も交代で受け持ち実施、グループ面接講座では、入室する際のマナーなどもレクチャーされた。また、グループディスカッション講座では、農業の自由化など難しいテーマも出題。各講座の終了後には講師の先生に残っていただき、疑問に思ったこと、不安に思ったことなど質問に答えていただいた。これからの就職活動で避けては通れない3種類の選考試験を1日で体験できる充実した内容となっている。

講座を受講した人間科学部現代社会学科3年の横山雄一さんは「できるだけ早く就職を決めたいので講座に参加しました。初対面の方とグループ内で議題についてまとめるグループディスカッションや、実践さながらの個人面接、グループ面接など、ためになる講義を受けることができ良かったと思います。本番でも就職への熱い思いを企業に伝えられるよう、頑張っていきたい」と、抱負を語っていた。



▲難題に挑むグループディスカッション。



▲面接官の目線も知る個人面接。



▲面接の際の心構えを学ぶグループ面接。

常磐大学

News!

ヘルシーメニューコンクールで優秀賞を受賞

茨城県、茨城県教育委員会、公益社団法人茨城県栄養士会等が主催する「いばらき食育推進大会」が1月16日に開催され、人間科学部健康栄養学科の敦賀春菜さん（3年）が飲食店部門、青山栞さん（3年）、永盛早苗さん（1年）が給食施設部門でヘルシーメニューコンクールの優秀賞を受賞し表彰を受けた。このコンクールは糖尿病や急性心筋梗塞、脳血管疾患などを防ぐため、多くの方が利用する飲食店や給食施設で提供するバランスが良くエネルギー・塩分控えめ等のヘルシーメニューを提案するイベント。エネルギー、食塩量、野菜量、また高齢者向けには食べやすさなどの審査基準があり、それぞれの部門で最優秀賞1品、優秀賞が2品ずつが選ばれた。大会では人間科学部健康栄養学科の富田教代教授がコーディネーターを務めたパネルディスカッション「食育と絆」も開催され、心と身体を健やかに育てるための食育の事例が報告された。

▼敦賀さん「秋の味覚野菜たっぷりヘルシーランチ」さつまいもとかぼちゃときのこの豆乳クリームドリアなど。



▼青山さん「野『彩』たっぷり満足ご飯」鶏もも肉のくるみ味噌ソースがけ・ごろごろ野菜のポターージュなど。



▼永盛さん「とり塩麹ロール&いろいろ野菜グラタン」鶏塩麹ロール・トマトと豆腐のグラタン・すまし汁など。



常磐大学 高等学校

News!

カナダ3ヵ月語学留学から帰国

2012年8月19日に日本を出発し、カナダのアルバータ州エドモントンにあるハーリー・エインリー高校での3ヵ月間の留学生生活を終え、5名の生徒が11月18日に帰国した。8月は英語集中プログラムで英語力を向上させ、ホストファミリーとの生活にも慣れた9月からは高校の授業に参加。数学・現代社会・ESL（英語を第2言語とする生徒対象の授業）などを学び、週末はホストファミリーと自然体験や博物館見学、クッキング、ショッピングなどカナダの歴史や文化に触れる、貴重な体験をした。

このプログラムに参加した、野中里美さん（2年）は、「ホストファミリーと過ごした時間はとても貴重でした。彼らのおかげで、カナダの自然や文化、生活について深く知ることができ、また、毎日の会話の中で、英会話力を伸ばすことができました。これから、この留学で身に付けた英会話力を生かして国際的なコミュニケーションにチャレンジしたいと思います」と語ってくれた。また、田島彩花さん（1年）は、「吹奏楽部の経験があったので、『器楽』の授業を選択することができ、音楽を通して周囲の人と会話ができるようになっていきました。だんだん会話に慣れてくると、クラスメイトとのやり取りも楽しくなっていきました。帰国の日が近づくにつれ、別れが寂しいと感じるまでにクラスメイトとは仲良くなることができました。この経験は、世界中の国々のつながりを改めて考える機会にもなり、大変有意義な留学でした」と語ってくれた。



▲左から宮本苑佳さん、田島彩花さん、中越麻紗子さん、先生、大金葵さん、野中里美さん。（ESLの授業の後に撮影）



▲ホストファミリーと共に訪れたアルバータ州バンフの街並

2006年度より始まったこのプログラムは2012年度で7年目を迎える。これからもこのプログラムが生徒たちの国際的な視野を養う一助となるよう支援していきたい。

智学館中等教育学校

News!

人権メッセージー最優秀グランプリ賞を受賞ー

智学館中等教育学校5年の吉田鉄郎さんが、茨城県が募集する人権メッセージに作品を応募し、応募総数87,683作品（小学校～高校・特別支援学校・一般を含む）の中から、見事、最優秀グランプリ賞を受賞した。吉田さんの作品は、12月の人権週間中、県内を走る電車・バスの車内ポスターや、茨城新聞（12月4日朝刊）での告知広告内に掲載された。

吉田さんは、「人にはそれぞれ違い（個性）があることに気付いてほしい。そして、その違いを認める大切さ、人を思いやる大切さを知ってほしいと思います。そうすることで、いじめが原因で自殺してしまうという悲しい事件が減るのではないかと考えました」と、このメッセージに込めた思いを語ってくれた。



自分と全く同じ人なんて1人としていない。
みんなが違っている。それがあたりまえ。
その違いを認めることが大切なこと。
幸せをわかちあったり、辛いときには相談したり。
人間はたくさんの違いと出会って、泣いて、笑って、
感動して生きていく。助けあって生きていく。
違いを認める！！
人間だけができる最高の能力だと思う。



▲賞状を手にする吉田さん。



▲人権メッセージ車内広告。

常磐大学幼稚園

News!

餅つきー園児たちが楽しく餅つき体験ー



▲カーク杯杵を振り下ろす園児たち。

毎年恒例の「餅つき」が1月16日に行われた。園庭にかまどを設置し、小枝や枯葉などで薪を焚きつけて火をおこす。時間や手間は掛かるが、昔ながらのやり方で行うことで、子どもたちの興味は深く広がっていくようである。パチパチと薪が燃え上がる音や、どこか懐かしさを感じる煙の匂いと一緒に、釜からも白い湯気が勢いよく上がる。

30分ほどしてもち米が蒸し上がり、いよいよ餅つき開始。それぞれ学年に分かれて3回行い、遊戯室で参観した。

熱湯で温められた木の臼や杵を使い、餅米を十分こねた後、子どもたちの「ヨイショ!ヨイショ!」という掛け声に合わせて、通園バスの運転手さんがリズムよくつき続けると、見る見るうちに白く、のびの強いお餅がつきあがった。担任教員も交代でつき、子どもたちからは「がんばれ!がんばれ!」と、声援が飛び交った。年長児は特別に一人ひとりが杵で餅つきを体験する。「杵って重いねえ」「杵がお餅から離れないー!」など、感嘆の声が上がり、杵から伝わるお餅の感触も十分楽しんだ。

ボランティアの保護者の方々にもお手伝いをいただきながら、栄養士の先生方がおやつとして3種類の味のお餅を用意してくれた。「どのお餅も全部おいしかったよ」「お餅はすごく伸びるんだよー」と、溢れんばかりの笑顔だった。つきたてのお餅のおいしさの記憶と共に、また幼稚園での思い出が一つ増えた。



▲約190人分の餅米が釜で蒸された。

